

桑園への還元などの点で養蚕と共存的であるのに対し、果樹は土地利用上・労力配分上および農薬散布の面でも養蚕とは競合する。養豚・果樹の分布も異なり、養蚕・養豚の複合経営の行なわれる西部・南部では養蚕に対して積極的に果樹化が進まないのに対し、果樹の比重の高い東部・北部では養蚕に対して消極的である。

## 商業から見た土浦市の研究

田 中 佐和子

土浦市は、人口約10万、茨城県南部の地方中心都市である。東京からは60数キロに位置し、北には筑波山、東には霞ヶ浦を背景に、緑と水に恵まれた穏やかな都市となっている。

江戸時代の城下町から、そして、予科練で名高い軍事都市へと、それぞれの時代に特徴ある発展をしてきた土浦市は、従来の、農村地帯を背景とする地方中心都市から、近年ではますます、首都圏の衛星都市としての性格をも強めてきている。

また、一方では、土浦市に隣接して、筑波研究学園都市(目標人口22万)が建設中であり、まったく新しい都市であるだけに不確定の要素も多いが、土浦市に少からず影響を及ぼすことが予想されている。

この論文では、このような土浦市という地域について、その発達と構造を見ることで、その性格を考えたいというのが目的である。商業活動は、そのための視点として選んだ。

土浦市の性格を考える時、その最も基礎的な要因として

- ① 地形が平坦で、気候も比較的温和であり、人間の居住という点で、恵まれた環境に位置していること。
- ② 霞ヶ浦の西の端に位置していること。
- ③ 首都東京から60数キロの東北側に位置していること。

この3点をあげることができると考えられる。この3つの要因は、土浦市の発達、構造において常にその根底となった性格であるが、これらは現在の土浦市に

- (1) 独立した一地方中心地として
- (2) 首都圏の衛星都市として
- (3) 筑波研究学園都市に隣接する都市として、3つの側面を与えている。

商業活動において見るならば、県南の中心としての規模をもつ土浦商業の位置は、土浦が、周辺農村や霞ヶ浦を背景に中心地として発展してきたことを示しているし、また、卸売業における最近の伸びの低さや、小売業における相対的な買物機能の低下等は、土浦市が首都圏の衛星都市としての一面を強めてきたことを示していると考えられる。そして、中心商店街の構造には、土浦の発展の歴史や地域性を反映した土地利用が見られる。

このような性格を示す土浦市は、近年においてますます、首都圏の衛星都市としての一面が前面にでてきているように思われる。

また、筑波研究学園都市の出現も、その影響を予想して、土浦市では様々の調査や計画等が現在行われている。

しかし、これらの性格は、土浦市の、独立した一地方中心地であるという基本的な性格を変える要素にはならないと思われる。土浦市が周辺農村地帯の中心地として発生し、長年にわたってその役割りを果たしてきたことは、土浦市にとって最も大きな背景であり、これは、土浦の変貌にとっての対象ではなく、その要因となるべきものと考えらる。

## 上信越高原国立公園における スキー場の立地条件に関する考察

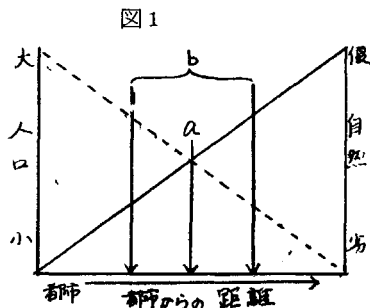
久山 幹子

現在、日本のスキー人口は800万人、あるいは、1,000万人ともいわれ、スキーはウィンタースポーツの中心的存在となっている。しかし、スキーの歴史を辿ってみると、これは第二次世界大戦後、特に1960年代以降の経済の高度成長、人口の都市集中にともなう1つの顕著な現象であり、大戦前とはまったく異なる型のスキーが行なわれていることがわかる。

そこで、本論文では5つのスキー場の比較考察という方法で、現在繁栄しているスキー場とはいかなる条件を備え、また、条件相互の関係や比重はどうなっているのかを探ってみた。研究対象としては、草津スキー場（群馬県吾妻郡草津町）、志賀高原スキー場（長野県下高井郡山ノ内町）、菅平スキー場（長野県小県郡真田町）、苗場スキー場（新潟県南魚沼郡湯沢町）、中里スキー場（新潟県南魚沼郡湯沢町）を選定し、これらはいずれも上信越高原国立公園内にある。スキー場の立地条件としては、自然条件、施設の整備、交通条件、宿泊施設の4つを取り上げ調査した。

スキー場の立地には、自然条件が最も重要かつ基本的条件であることは当初から推測されていたが、本論文を書き終え、より一層自然条件の比重の大きさが認識された。スキー客入込み総数を決定する最も基本的条件は、①滑走可能期間を決定する雪積量、②スキー場となる斜面を提供する地形、③スキー滑走の快適さを決める雪質の3つで、これらの備わった場所に適切な資本投下による施設の整備が行なわれると、大量のスキー客が入り込む。なお、本論文のフィールド内においては、交通条件は方面別入込み比率や利用交通手段別の比率を決定する条件の1つに留まり、また、自然条件、施設整備の劣ったスキー場の欠点補完的条件の1つにすぎない。宿泊施設も、立地条件として占める位置は戦前と異なり、間接的、付加的条件に後退している。

ところで、施設の整備と宿泊施設は資本の投下によって改善可能なのに対し、自然条件と交通条件（都市からの交通時間距離）は人為による改善はごく限られている。この



- a: 資本投下により最も多量の入込みを期待できる地点  
b: 可能性のある範囲